



皆様の「快適な暮らし」のヒント

すまい造りメール

第177号 2016年12月号

SINCE 2002.4.1.

発行日平成28年12月1日
発行元有限会社佐野工務店
〒237-0068
横須賀市追浜本町1-25
TEL 046(865)4010
FAX 046(865)6139
http://www.sano-k.net/
info@sano-k.net

お世話になりました

今年もお世話になりました。皆様におかれまして、2016年はいかがでしたでしょうか。

弊社では、今年も昨年同様に、地元のお客様のリフォーム、介護保険制度を利用した住宅改修工事を中心に取り組みで参りました。また、今年も11月5日・6日と開催されました「よこすか産業まつり」に出展しました。お陰様で、たくさんの方々にご来場いただきました。ありがとうございました。

今後とも、皆様にご満足いただけるようなサービスや企画に取り組んで参りますので、ご愛顧、ご愛読の程、お願い申し上げます。

これから寒さが増して参りますので、ご自愛の程、お祈り申し上げます。少し早いですが良いお年をお迎えください。

お客様のご紹介で初めて担当させていただいたお住まいをご紹介させていただきます。今回は、3～4年前から大雨になると、屋根に取り付けた換気扇フードから天井の換気扇をつたわってポツポツと落ちる雨漏りを止めてほしいというご要望です。そのまま放置していたため、天井と壁の木製の下地はボロボロになってしまいました。原因と思われるフードを取り除き、屋根を補修しました。

「前略 おせわ様。その後いかがお過ごしですか。」



既存のトタン屋根を一旦取り外したあと、フードと換気扇を取り外し、念のため屋根を二重に張り、周辺のゴミを取り除き、雨漏り対策をしました。増改築を繰り返したために、雨の流れを受け止める樋が十分でなかったようです。

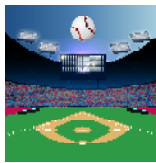


「劇的な」リフォームではないかも知れませんが、ビフォー、アフター、さらにそのアフターまでお手伝いさせていただきます。

Oppamap

毎年この時期に12月1日現在の追浜駅周辺の地図「oppamap」

をバージョンアップする作業をしています。ちょっとしたスペースに小さな駐車場が増え、新しい店舗がオープンし、だんだんと追浜の街がリニューアルされています。横須賀市で唯一人口が増えた街でもあります。また、横浜DeNAベイスターズのファーム施設移転の建設工事も来年スタートします。さらに、追浜工業団地に食品工場と発電施設が2018年に操業を開始します。だんだんと追浜の街がリニューアルされています。



皆様のご愛顧、ご愛読に感謝申し上げます
創業 1960.1.20. 創刊 2002.4.1. **Next50**

よこすか文学館

中古、中世の物語文学を中心に研究されている中島正二氏に、歴史、小説、映画などジャンルを越えて「よこすか」が舞台となった芸術作品を紹介していただきます。

(すまい造りメール第77号参照)



第十二話

りくじょうじえいたいこうとうこうかがっこう
陸上自衛隊高等工科学学校

陸上自衛隊武山駐屯地のなかには、教育機関である「高等工科学学校(旧・少年工科学学校)」があります。防衛大学校の高校版(男子校です)といったところです。その学校が登場する小説に、篠山半太『君がナース 衛生兵で歩兵が俺で』(スマッシュ文庫)があります(小説のなかでは「陸上自衛隊武山高校」という名称で男女共学の設定となっています)。ライトノベルではありますが、憲法9条や海外派兵などの問題を取り上げている、硬派な小説でもあります。マンガでは、

所十三『突撃め! 第二少年工科学学校』1～4(講談社コミックス)があります(現実には「第二」はありません)、同校の生徒たちの、飛び切り熱い青春と友情が、ユーモラスに描かれています。



陸上自衛隊高等高等学校 正門

〔洗足学園中学高校教諭 中島正二〕

横須賀製鉄所物語（永嶋家と横須賀製鉄所）＜30＞

52年11ヵ月の間、都市政策を中心に横須賀市の発展に寄与され、最後の8年間は2期に亘り、横須賀市助役として活躍された井上吉隆氏に横須賀製鉄所についてお話を伺いました。

「木曽路はすべて山の中である。あるところは数十間の深さに臨む木曽川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入口である」で始まる島崎藤村の小説『夜明け前』に出てくる公郷村の「山上家」が聖徳寺坂下の長屋門のある赤門です。『夜明け前』は、島崎藤村の父をモデルに青山半蔵として描いています。永嶋家も島崎藤村の実家とともに三浦一族の流れを汲む名家であり、島崎藤村の実家も筑摩県馬籠村（岐阜県中津川市）で中山道馬籠宿を開き、代々庄屋、本陣、問屋を営んだと伝えられます。島崎藤村はそこで生まれ育ち、後に父の姿を小説にと横須賀に足を運び、調査を重ね7年の歳月をかけて『夜明け前』を完成させた大作です。その山上家即ち永嶋家は、「赤門」とか「田戸庄」と呼ばれていて箱崎半島の掘割を最初に開削しました。永嶋家は、1800年代から公郷村の名主で苗字帯刀をゆるされた由緒ある名家で、代々庄兵衛を名乗っていました。そして、『新横須賀市史』軍事編によりますと、横須賀製鉄所建設の地元協力者としてその名が表記されています。更に永嶋家文書によれば横須賀製鉄所への砂利・砂などの納入のほか「第二海堡」「第三海堡」の工事を請け負うとの記述が見られます。

フランスでは幕末期から三次にわたり軍事顧問団を日本に派遣しました。第二次軍事顧問団のマルクリー団長に当時の新政府陸軍・海軍の最高責任者である山縣有朋は、東京湾を視察させて「海岸防御方策」を提出させました。その内容について『東京湾第三海堡建設史』において「日本の海岸防御のためには東京を初めとする大都市を護る事である」とし特に東京に「東京湾口の品川湾・横浜・横須賀湾に軍備を設けるべきである」とし、具体的に東京湾口については「観音崎・富津岬・猿島に砲台を設け、さらに富津沖に海堡を設けるべきである」としています。そして同書によれば1881年5月参謀本部長山縣有朋と陸軍卿大山巖は太政大臣三条実美あてに連名で「東京湾防護線砲台築造費別途下渡シ之儀二付上申」を提出しました、明治14年から10箇年計画で工事費総額は245万円余と記されています。そして、1889年（明治22年）には参謀総長である熾仁親王から「増設海堡ノ要領」が陸軍大臣大山巖あてに提出され「第二海堡」「第三海堡」が新たに追加されました。それぞれ年月をかけ建設されましたが、関東大震災でそれぞれ被害を受けましたが第三海堡は沈下し波浪を受けて暗礁となりました。そして、航路の安全確保・海上事故の防止の視点から撤去することとなり、漁業関係者との交渉が妥結し2000年（平成12年）から7年後の2007年（平成19年）に撤去が完了し、その遺構の一部が市内二箇所に保存されています。こうした日本の海防には、永嶋家は大きな役割を果たしましたが、永嶋家のご子孫は移転されました。その後お住まいの方が長屋門・浦賀道の道標を残されることになりました。

（註）「海堡」 海上に人工的に造成した島に砲台を配置した要塞の一つ

（横須賀市助役 井上吉隆）



①掘割
②永嶋家の赤門

11月5日(土)・6日(日)三笠公園で「よこすか産業まつり」が開催されました。横須賀市の発表によりますと、両日でのべ39,000人（5日20,000人/6日19,000人）の来場者がありました。弊社のブースにも、たくさんの小さなお客様と一緒にご家族の皆様66組にご来場いただきました。小さな手で、大きな夢を持って、歴史を活かした街づくりにご参加いただきました。

過去エリアの150年前の横須賀製鉄所と**現在エリア**の現在の汐入駅周辺は、ほぼ完成しました。また、これから150年後の横須賀の街**未来エリア**も街づくりがスタートしました。3年計画の最後の年となる来年、**ARSENAL D' IOKOSKA** が完成します。来年も是非、歴史を活かした街づくりにご協力ください。



お問い合わせ

住まいに関する皆様の疑問や質問、お知らせしたいことや情報などがございましたら、ご連絡ください。郵送の停止を希望される場合や、バックナンバーを希望される場合など、ご遠慮なく、お申し出ください。

尚、ホームページより「**すまい造りメール**」創刊号からのバックナンバーをはじめ、追浜周辺の地図「Oppamap 2017」A-9歩ZONE版（永久保存版）をダウンロードすることができますので、アクセスしていただき、ご活用ください。

皆様の「快適な暮らし」のヒントになることができましたら幸いです。

〒237-0068 神奈川県横須賀市追浜本町1-25 有限会社佐野工務店
TEL 046(865)4010 FAX 046(865)6139

すまい造り

検索